町村新報

發行日　毎月二回　十五日卅日
編輯兼印刷發行人　酒井秀吉
發行所　福島縣石城郡磐崎村大字下湯長谷勝善三十八番地　町村新報社
定價　一部金十錢　一ケ月金二拾錢
廣告料　五號活字十二字詰一行金二十錢　別色刷四十錢

時事漫語

◈

正月はチト正月らしい氣分になるかと思へば、さつぱり駄目である、わけて田舍では陰暦を用ゐるためか、みんな蒼い、しほれた顔ばかりである、衣食に不足があつては心にゆとりが出來やう筈もない。

◈

盆も正月も樂しかるべき、年中行事もだん〳〵、影が薄れて行く、本當に世智辛い世の中になつて行く、何よりも食ふ事、生きる事が第一である、本能の表はれで何共仕方がない、然しよく考へて見ると、人間各自の心より以上に荒んで居る

◈

借りた物は吾が物、返すが馬鹿位になつた、借金踏み倒し策が、正々堂々とたくまれて居る、人を社會を指導すべき地位にある者が平氣で之をやる、おそろしくなる、ある金も出なくなる流通が途絶える、益々金融の窮迫を招ぐ事になる。

◈

法律さへ、甘く潜れば德義はどうでもよいといふのが現代である、法律は道德の第一規準である、習慣も風習も社會的の美風は、すつかり消えて行く、法律一点張りの世の中の無味乾燥さ加減は、砂漠に生きて居る様なものである。

◈

人情味のない、奪ひ合をする、丸で禽獸に等しい世相を現出した現代は、人類をして原始時代に還えせしむるものである、誰も文明の余澤に浴する事を樂しみに思ふのに、却つて、外面如菩薩內心如夜叉になるとは何と淺間しい限りである。

◈

釋導も孔子もキリストも、この腐敗混濁した、世の中を救ふ力はない、世界は今やモツト偉大なる救世主の現出を望んで居る、人間の心の何處にか他の動物と異る靈の存在はある、物質萬能の、この惰落せる暗き世を明るく照す救主出てよ。

物價高低の理法とその歸着點

物價の高低は主として需要供給法則に支配せらるるものである、需要とは即はち貨幣を似て物を求むる意で供給とは物を以て貨幣を求むる意である。而して需用が多く供給が少ない時は需要者の幾分かは供給を得ざるを恐れ競爭して早く買はうとするから隨て物價は昂副し、之に反して供給が多くて需用が少い時は供給者の幾分は需要者を得ざらんかを恐れ、早く賣らうとするから價格の下落するのは當然である。即ち需要增加して供給依然たるか或は需要依然として供給減少するか、兎に角供給の需要よりも多い時は物價は下落するものである。概して市價が上がれば其物の需要が減少して供結が增加し、之に反して市價が下がれば需要が增加して供給が減少する。而して需要と供給とは市價依て物價の高低を生ずる原因は右の通りであるが、又財の種類に依ても差違がある、即はち供給に限りあるものと限り無き物に依て異なり、同じく供給に限りな記者に就ても供給を增加するに其增加の割合以上に生產費を增加するものと供給の增加以上に生產費增加せざるものとに依て相違がある。斯く物價の高低は前述の通り需要が多くて供給の少ない時は市價が高く、反對に需要が少なくて供給の多い時は市價が下落する即ち此の場合には其財を生產する生產料の多少に依り直ちに市價に高低を生るものではない、然し財を生產するに相當の生產料を要するのであるから之に相當するだけの市價なき時は假令一時其の需要供給の割合に依りて市價の高低を生じても之を生產する事が隨意で競爭の自由の物ならば永く其高低を持續するものではない、遂には財を生產するに必要なる生產料に相當すべき点に歸着すべき傾向のあるものである。財の生產料とは粗製品即ち原料の市價勞力者の賃銀資本家の利益租稅保險料等一切財を生產するに就て要する相當の費用である、若し需要供給の割合に依て或財の市價上りて生產料より高ければ報酬の割合がよいから人々は爭じ之を生產するから、其供給が增加して市價が下がる財の市價が下がつて生產料よりも低い時は之を生產しても報酬の割合が好くないから供給が減少して市價が絶えず生產料の點に歸着せんとする傾きあるもので此の點に至れば供給の增減なく正に平均を保つものである、之を物價の歸着點と云ふのである。　以上

◆家相及地相吉凶の概畧◆

家相や方位を種々やかましく云ふと御幣擔ぎとか迷信家だとか云ふ人があるかも知れぬが家相や方位は決して根擧のない迷信ではない凡て自然の理法から來て居るものである、草木を見ても解る通り、日光を充分浴して居る者は靑々として生氣に滿ち日陰にあるものはいぢけて生氣がない。

家相の善惡は即ち適陽の配合の善惡を云ふのであつて南や東に向つて日當りよく暖かい家ならば理屈はさて置き誰でも氣持がよい。要するに健康上好いからであつて健康に敵すれば自ら活氣に滿ちて益々家は繁榮する。

前述の理由により家は先づ南向を以て第一としてあるがただ南向でさへあれば便所が正面であらうと湯殿が何處向きであらうと構はないと云ふ譯には行かない、其れ等本來の性質に依つて却つて陽の方位より陰の方にあつた方がよいのである家相の善惡は即ち其の井戸とか湯殿とか勝手とかの配置が最も其れ等のものゝ本來の性質に從つて適當の配置されたものを好しとするのである、以下地相と家相の善惡を簡單に列記して見よう

◎東の方　家相地相共東に張り出したるは吉。缺けたるは惡し。全じ缺けて居ても中央が張り出て南端が缺けたるは吉。又此の方向に不淨あるは凶。門戸が東の左右よりにあるは吉。井戸も土藏も此の方向にあるは吉なり。

◎西の方　西の中央が張り出た家相地相は吉、戌亥の出張つたのは吉缺込みは凶未申の出張つたのは吉凶、半ばし缺け込んだものは吉西の方に土藏のあるは吉だか不淨のあるは宜しからず酉から少し戌の方に門があるのは大吉、神棚も全じく其の方位にあるのは吉。湯殿が西にあるは凶。井戸が眞西にあるのは半吉なり。

◎南の方　南の中央が出張つた地形家相は大吉、缺け込んだのは大凶。辰巳の出張は吉、缺け込みは凶。此の方位に中庭があつて出入に不便なのは吉、未の方位だけが特に張り出て居るは凶、又此の方位に神棚のあるのは大凶也。未申の湯殿と便所は宜しくない。

◎北の方　北の方に出張た地相家相は大吉。缺け込んだのは宜しくない、金德があつても主人の命に關するか或は妻女の貞操に傷く樣な事がある。巽北に門戸入口があるのは凶。土藏があるのは吉。門戸が戌亥に張り出したるは大吉、神棚佛檀の此の方位にあるは大吉なり。

◎便所と湯殿　便所と湯殿は共に不淨のものであるから凡ての方角の正面にあるのは宜しくない。又辰巳の便所も宜しくない。

◎井戸は東の方大吉、南は大凶。流し走りは東西辰巳が吉、北の方は空位にして清淨にしなければならぬ。

（以上）

磐城共濟病院案內

本病院は時局に鑑み八月一日より入院料並に往診料左の通り低減致候間御參考迄申上候

入院料……一日　一般　金貳圓也　本會員　金壹圓五拾錢也
往診料……院長及其他の博士に限り　一般金參圓也　本會員金貳圓也
（但シ平町內）

尙地方往診料も之れに準じ低減致候間此段申添候也

（各科專門醫擔當）

內科　小兒科
外科　皮膚泌尿科　整形外科　內臟外科
產婦人科　女子泌尿科
耳鼻咽喉科
X光線科
物理學的診療科

院長　醫學博士　難波睦
本院主管　賀澤忠治

磐城　共濟會
平町　電話六四一番

兒童作品募集

作文、童謠、唱歌、童話

各學校職員各位の御寄稿を乞ふ

編輯部記者